

We ♥ どうとく Vol.1

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

みちしるべの効果的な活用

みちしるべの生徒の記述、どんな視点で読んでいますか？「自分との関わりを通じて考えられているか（青）」、「多面的・多角的に考えを広げているか（赤）」、の2つの視点で読むことにだいぶ慣れてきたのではないのでしょうか。この視点は、生徒を評価する視点ですね。みちしるべを、自分の授業を評価する視点で活用してみませんか？

生徒が何を書いたか＝自分の授業 赤線が多い授業なら、生徒が様々な考えに触れられる手立てや発問が効果的であったということ。青線が多いなら、生徒が自分ごととして考えられる場面があったということ。逆に、線が引けなければ・・・ということですよ。となれば、青がなかったら次の授業で赤を増やす手立てを。また逆もしかり。そうやってみちしるべを読んでいくと、自分の授業をよりよくする材料がたくさん見つかります。

生徒を見とるだけでなく、自分の授業を自分で評価し改善する。ときには、「よし！書いてくれた！」「この子がこんなこと書いてくれた！」と自分の授業を褒めることも必要ですね。2学期もがんばりましょう！

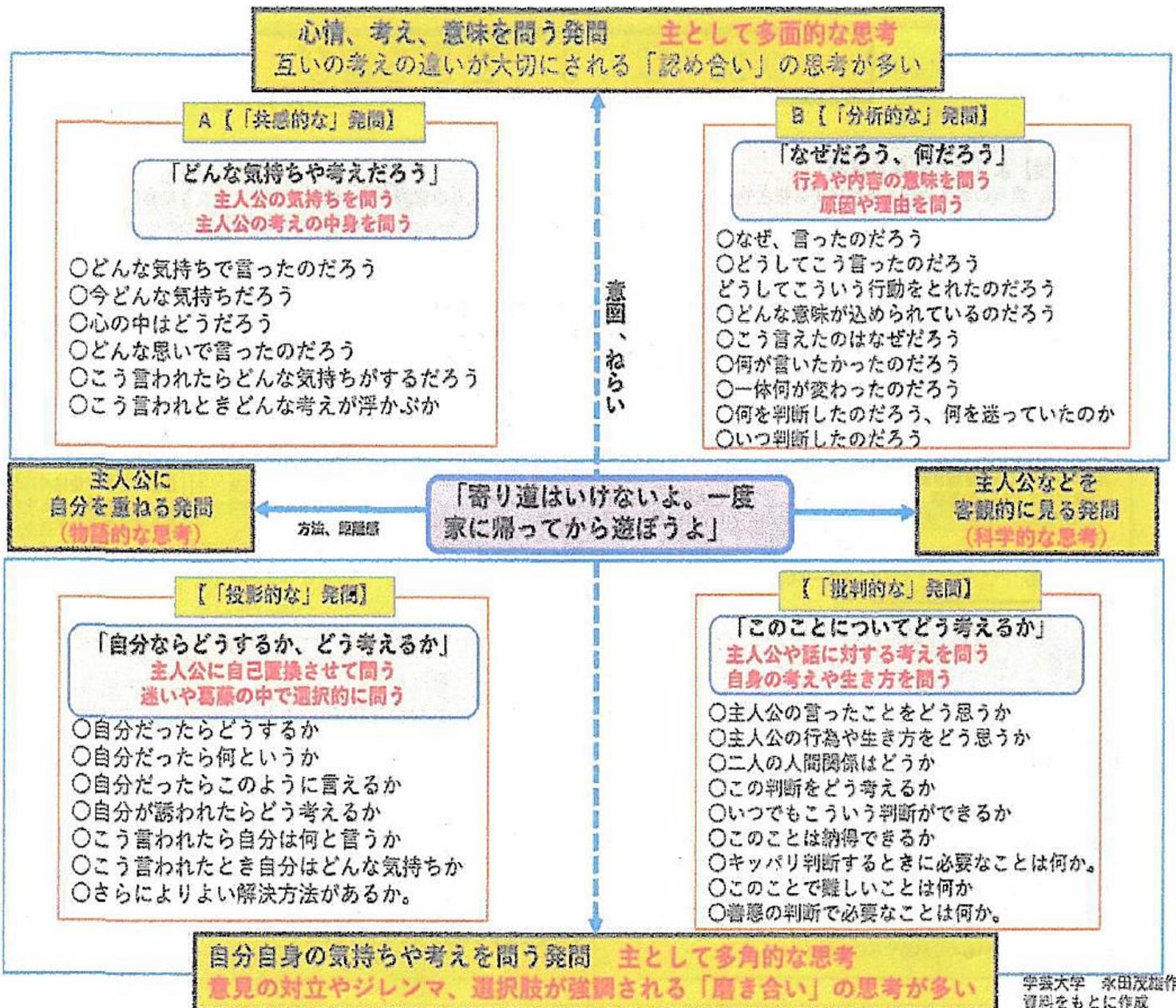
We ♥ どうとく Vol.2

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

道徳の授業における発問 Part 1

生徒の思考を動かし、道徳の授業の流れを作る発問。ほんのちょっとした言い方の違いで、生徒の反応や、考えの方向性が大きく変わった経験、ありますよね。発問が授業をキラッと輝かせたり、ガラッと壊したり・・・本当に重要ですよね。そこで発問についてシリーズで情報をお届けします。まず Part 1 では、2018年8月に邑楽町教育研究所の道徳授業改善研修会で、久保信行先生が示してくださった道徳における発問分類表をご紹介します。



We ♥ どうとく Vol.3

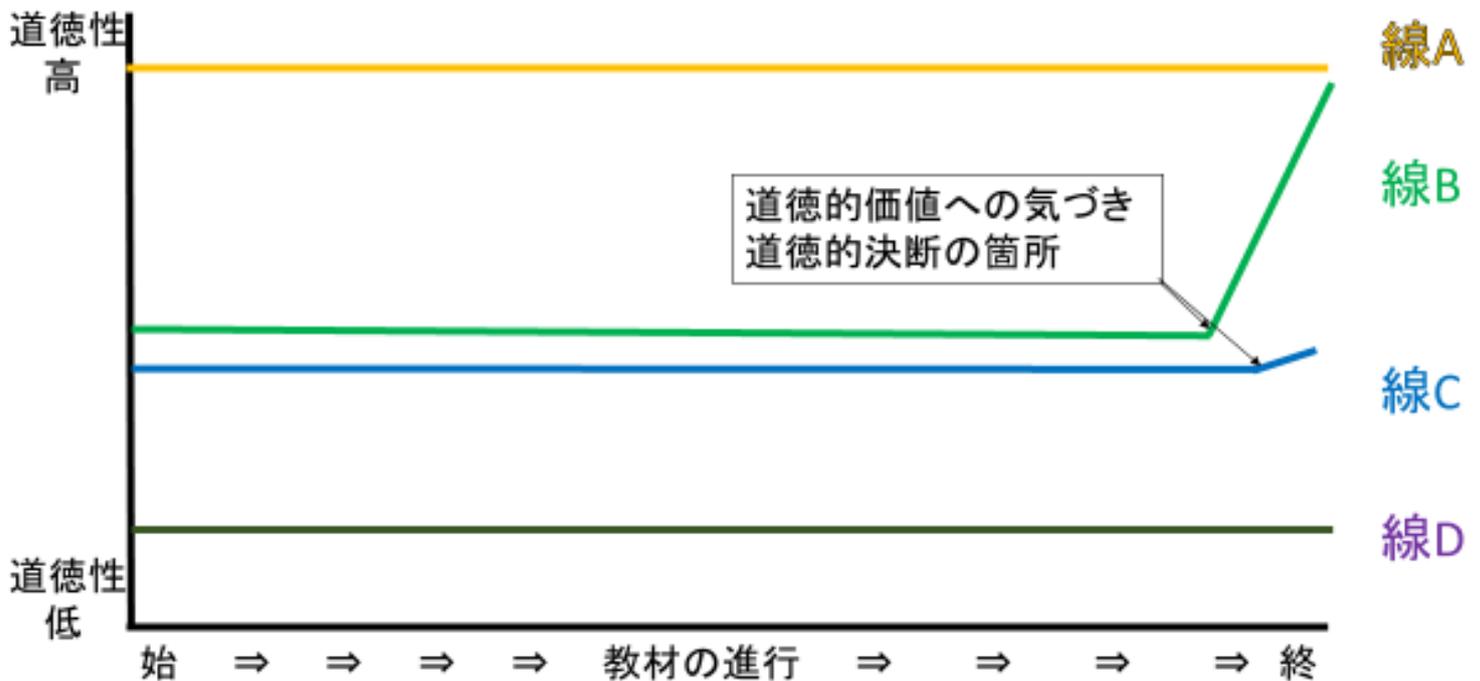
～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

道徳の授業における発問 Part 2 中心発問

発問の中でも、ねらいに迫るうえで最も重要な**中心発問**はどう決めていけばいいのか、悩むことがありますよね。以下の図をもとに考えてみましょう。

主人公(登場人物)の心の変化(道徳的価値への気づき、道徳的決断)



菅岡栄 (2018) . 道徳科授業づくりと評価の20講義 明治図書 pp.44

縦軸は教材中の主人公の**道徳性**です。横軸が**教材の進行**です。ほとんどの教材が緑の線 B、もしくは青の線 C のように、教材終盤であるきっかけで主人公の道徳性がグッと高まったり、あるいはこれから高まりそうな様子を描いたりしています。**中心発問はそういった、主人公の道徳性の変化がもたらされた場面に設定することが基本**かと思います。あくまで基本ですから、それが絶対ではないわけですが、何より**授業者が明確な価値理解と指導観、ねらいをもつことが大事**です。そのうえで発問が決まるわけですから。

では線 A、線 D の場合は？これについては上記参考資料をご覧ください。読んでみたいという方は和田までお知らせください。

We ♥ どうとく Vol.4

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

道徳の授業における発問 Part 3 切り返し発問

(補助発問)

教師：「(発問)」 生徒A：「〇〇だと思います。」 教師：「なるほどね。他にある人。」 生徒B：「△△だと思います。」 教師：「ほほー。」

こういうやりとり、道徳の授業でよくありますよね。ねらいに迫るために、また、自分との関わりを通して考えさせるために、生徒の意見や考えに対して切り返す発問が効果的です。今回は切り返しのパターンを、麗澤大学の富岡栄先生や元教科調査官の押谷由夫先生のお考え+私なりに考えたものをいくつか紹介します。

	切り替えしパターン	例
1	理由・動機	なんで？どうしてそう思うの？どうして主人公はそうしたの？
2	具体・例示	例えばどういうこと？みんなが分かるように伝えてみて？学校生活だとどんな場面？
3	未来・結果	そうすると、どうなるの？それがどんな結果をもたらすの？
4	過去・経験	前からそうだったのかな？いつからそうだったのかな？同じような経験ある？
5	可逆性の原理	自分はそうされてもいいの？
6	普遍性の原理	いつでもそうなの？どこでもそうなの？誰にでもそうなの？必ずそうなるの？
7	互惠性の原理	それでみんなが幸せになるの？全員にとってそれがベストなの？
8	弱さ・醜さ	本当にそれができるかな？そうできないのはどうしてだろう？その弱さに共感できる？
9	願い・誇り	そうすることの良さって何？そう生きる良さって何？それができる自分をどう思う？
10	本質	それって大事なの？それがないとダメなの？そもそもそれって何？なんでそれが必要なの？

We ♥ どうとく Vol.5

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

議論の在り方を考える Part 1

邑楽中の道徳の授業も先生方のお力でますますレベルアップされています。授業では生徒がペアや班になり、互いの意見を発表し合う時間が必ずと言ってよいほど設定されています。まさに「議論する道徳」の実践。

実践していると「議論」の場面もマンネリ化したり、生徒同士がただ意見の発表会をしていて深められなかったりと、難しさに直面します。前期訪問でも指導主事から「なんのために議論をさせているのか分からない」「とりあえず班にして発表させているだけ」「もっと効果的で意味のある議論ができるように、様々な手立てや方法を考えなさい」とご指導をいただきました。厳しい言い方だな、悔しいな、と思いながらも、邑楽中が次のステップに上がる準備ができているということだな、とも感じました。

「考え、議論する道徳」は次期学習指導要領の主旨を他教科に先立って形にしたものです。「考え」は「主体的な学び」、「議論する」は「対話的な学び」です。これから新シリーズで道徳科における「対話的な学び」＝「議論」について情報を発信したり、一緒に考えたりしていきます。

We ♥ どうとく Vol.6

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

議論の在り方を考える Part 2

道徳における「対話的な学び」とは？ 国が言うところは・・・

中教審答申「…学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」

子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすることが求められる。例えば、教材や体験から考えたこと、感じたことを発表し合ったり、(中略)葛藤や衝突が生じる場面について、話し合いなどにより異なる考えに接し、多面的・多角的に考え、議論したりするなどの工夫を行うことや、日ごろから何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気を作ることが重要である。(中略)

また、児童生徒同士で話し合う問題解決的な学習を行うに当たっては、そこで何らかの合意を形成することが目的ではなく、そうした学習を通して、道徳的価値について自分のこととして捉え、多面的・多角的に考えることにより、将来、道徳的な選択や判断が求められる問題に対峙した時に、自分にも他者にとってもよりよい選択や判断ができるような資質・能力を育てることにつながることに留意する必要がある。なお、発達の段階や個人の実態等を踏まえれば、教員が介在することにより「対話的な学び」が実現できる場合も考えられ、その実態を踏まえた適切な配慮が求められる。言葉によって伝えるだけでなく、多様な表現を認めることも大切である。

We ♥ どうとく Vol.7

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

議論の在り方を考える Part 3 思考が動く活動を創る「動詞」

多面的・多角的に道徳的諸価値について思考を深めることが重要です。しかし、「いろいろな意見が出た」＝「多面的・多角的な思考の深まり」とするのは不十分です。本当の意味での多面的・多角的思考を促す問い、つまり、思考をアクティブにする問いが大切です。ただ、なんとなくグループになってお互いの考えを発表するのではなく、他者と語り合う意義のある問いを与え、生徒相互の見方、考え方が深まる議論にしていきたいですね。以下がその例です。

考えるための動詞	発問の例
比較する	〇〇と▽▽の違いは？共通点は？
分類する	どんなグループ分けができるだろう？分ける基準は？
関係づける	〇〇と▽▽はどんな関係だろう？原因は何だろう？
視点（立場）を変える	〇〇の視点・別の人の立場からみるとどうだろうか？
推論する・適用する	身近な問題・別の問題にあてはめるとどうなるだろう？
具体化する	図に表してみよう
選択・判断する	どの考えがいちばんよいだろう？なぜそう思う？
見通す	結果はどうなるだろう？大切にしたい価値が実現するか？
批判する	本当にそれでよいのか？他の方法はないのか？
振り返る	学んだこと、よかったこと、これからの課題は何だろう？

考え、議論する道徳を実現する会（2017）、「考え、議論する道徳を実現する！」 図書文化社 pp.083

他にどんなものが思いつきますか？お互いのアイデアを共有して、教師も多面的・多角的に道徳の授業を創っていきましょう！

We ♥ どうとく Vol.8

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

議論の在り方を考える Part 4

問題解決的な学習 行為の根拠を問う

道徳の教材の多くは主人公の変容を描いています。教師は生徒に主人公の変容に注目させ、主人公を変えたものは何だったのかを問う。生徒はそれぞれの考えを伝え合うでしょう。しかしそれでは十分に思考が深まらないことがあります。なぜなら、主人公の心が変わった理由は教材の中には意図的に描かれておらず、無意識にも有意識にも生徒は教師の「ねらい」をくみ取り、授業はそれにそった「答え」を推定するクイズになってしまうことがあるからです。

その流れを改善するうえで、**問題解決型の授業**は効果的です。このスタイルの一般的な流れは、**行為の選択決定とその根拠を問う**ことです。主人公の選んだ選択が見えない中で「**どうすべきか**」を問う。あるいは、主人公の選択が描かれていても「**本当にそれでよかったのか**」「**どうすべきだったのか**」を問う。いずれの場合もさまざまな意見が出るでしょう。そして、「**なぜそう思うか**」を聞きあうことで、行為の根拠としてさまざまな見方や考え方に会うことができます。Vol.7の思考を活性化する「動詞」を使った問いとともに思考を促すことで、より議論・思考の活性化が図れるでしょう。ただし大事なことは、他人事ではなく、最終的に**自己を見つめ**直させることです。問題について考えることを通じて、自分にはどんな良さがあるのか、どのような改善すべきことがあるのか、生徒一人一人が道徳上の課題に対する自分のあり方を見つめ直すことが重要です。

We ♥ どうとく Vol.9

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

道徳的行為に関する体験的な学習

「生徒の発達段階や特性などを考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導を工夫すること」と指導要領にあります。今回は体験的な学習（役割演技・スキルトレーニングなど）についてお伝えします。「指導のねらいに即して」の「ねらい」とは、「道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするため」です。つまり、体験的な学習をする目的は、教科書の登場人物等の気持ちを理解するためだけでなく、礼儀作法などのようにスキルを獲得するためでもないということです。この点を誤解してしまうと、道徳の授業ではなくなってしまうので注意が必要です。

ねらいに即した体験的な学習の例として、バスで座席をお年寄りに譲るというシーンで考えてみましょう。生徒はお年寄りに席を譲るべきだと頭で分かっています。なぜそうすべきかも、敬老、思いやりなど様々な視点で考えるでしょう。しかし、その難しさやできたときの心の動きは頭で考えるのでは不十分です。教材の場面設定（混雑している、お年寄りとの距離がある、等）を可能な限り再現し、実際にお年寄り役の生徒に声をかけさせます。すると、頭で考えたのとは違った行動になることもあるでしょう。その理由や、そのときの気持ちなどを話し合うことができます。



We ♥ どうとく Vol.10

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

体験的な学習の技法

役割演技

劇化

動作化

前号では体験的な学習は、道徳の授業におけるねらいに即しておこなわれることの大切さをお伝えしました。今回は、体験的な学習の具体例として、役割演技、劇化、動作化についてお伝えします。（いずれもねらいを達成するための手段でしかないということをお忘れないよう）

役割演技：資料に描かれているシナリオどおりに演じる

劇化：セリフや状況を自分たちで考えて演じる

動作化：簡単な動作（お辞儀、物の渡し方など）をまねてみる

これらの技法をやればいいのではなく、教師がどのような意図をもってやるか、生徒にどんな問いを与えるかが大切になります。自分の日頃の行動パターンと比べさせたり、役割を交代して感じ方の違いを考えたり、自分との関わりで考えるという視点と、多面的多角的に考えるという視点を忘れてはいけません。

また、いじめについて体験的な学習を取り入れる際には最大限の配慮が必要です。被害者役が必要ならば、教師がやることが望ましいでしょう。

We ♥ どうとく Vol.11

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

一人一授業に学ぶ

岡田先生

増尾先生

濱先生

3名の先生方、
ありがとうございました！

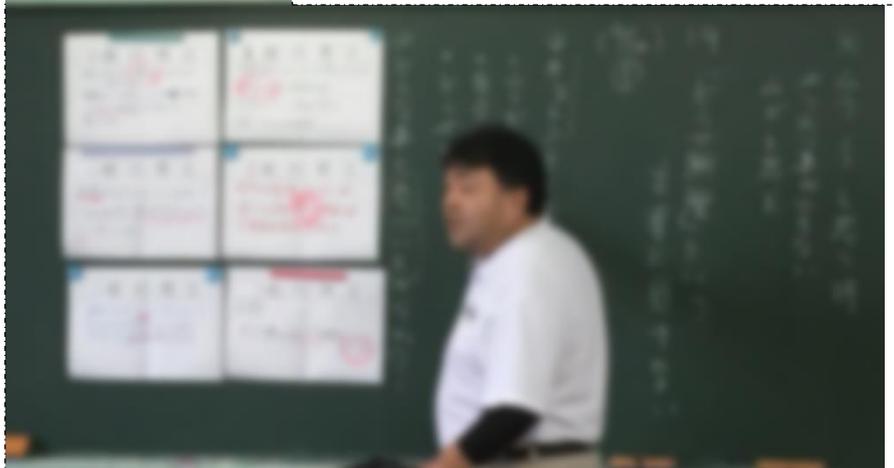


岡田先生 C-14 家族愛、家庭生活の充実

中心発問「家族はどんな思いでいるだろう」を班で考え、班ごとの意見を全体で共有しました。個人⇒班⇒全体と広げていくことで、生徒の考えがより多面的・多角的に広がりました。また、参観した若手教諭からは、「岡田先生の範読には重みがあり、自分たちにはできないものではない」という声があがりました。大きな刺激になったようです。

増尾先生 A-5 真理の探究、創造

下町ロケットのモデルとして有名な植松氏を扱った資料について、映像を見たり難しい用語を具体的に解説したりしながら丁寧に教科書の内容を理解させました。また、誰かが発表するたびに、他の生徒に「同じ考えの人は」と挙手をさせるなどし、1人の生徒の考えが他に拡散し全体の学び合いにつながっていました。班ごとに発表された意見の中からキーワードに目印をつけることで、考えを収束させていました。



濱先生 A-2 節度、節制

「歩きスマホによる危険の認識」と「歩きスマホの経験」について消防庁が出したアンケート結果が教科書に掲載されています。濱先生はそれと同じアンケートを事前に学級の生徒にし、比較して提示しました。また、スマホ依存度チェックを生徒にさせてから教科書の範読に入りました。そのことに資料内で描かれる節制ない生活をする主人公について、より自分との関わりを通じて考えることができました。



We ♥ どうとく Vol.12

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

筑波大附属小
加藤宣行先生
に学ぶ！

考え、議論したくなる学級づくり part 1

道徳の授業をしているとこう感じることは多くないでしょうか？「道徳の授業で、こどもが自由に考えを言えたり、活発に議論できたりするかは、**学級の雰囲気の影響が大きい**」と。私自身それを痛感しますし、であるからこそ、一担任として学級経営を通じて互いの考えを受け入れあえる雰囲気づくりを目指し試行錯誤の毎日です。

筑波大附属小学校の**道徳専科**として道徳の授業に現役で取り組まれ、道徳授業の最前線に立つ、**加藤宣行（のぶゆき）先生**の「**子どもが考え、議論したくなる学級づくり**」という著書をもとに、先生方（特に若手教諭）と共有したい、学級づくりの考え方について、一人一授業のシェアの合間にお伝えしていきます。

加藤先生の学級経営方針

「このクラスにいてよかった！」「**みんなで考えたい！**」「**これ、考えようよ！**」「**みんなだったらどう思う？**」子どもたちが、そう言って話し合える学級づくりを考えています。



We ♥ どうとく Vol.13

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

後期指導主事訪問のふりかえり

先日の後期指導主事訪問では大変お世話になりました！小林みほ先生、授業提供ありがとうございました！授業研究会では、熱心にご協議いただきありがとうございます。成果、課題のうち1つでも、先生方の授業改善のきっかけになりましたら幸いです。本号では佐藤研修主任がまとめてくださった、和田、小林先生の授業の成果と課題を共有したいと思います。

★授業研究での成果（明らかになったこと）

- 生徒の実態（姿）を的確に把握し、机間支援や声かけに生かすことができていた。
- グループ活動の目的を明確にしたうえで、目的達成のために的確な手法がとられていた。
- マトリクス図を活用したことで、生徒の考えをわかりやすく分類することができた。
- みちしるべに書かれたこれまでの振り返りを参考にして、考えを深める姿が見られた。

☆課題とその解決に向けた具体的な取組

- 心情円盤を、行為ではなく、想いについて深く考えるために活用できるとよい。
- 授業における生徒の活動時間を確保できるように、板書計画を工夫できるとよい。
- 写真の活用方法を工夫し、生徒がより身近な問題としてとらえられるようにするとよい。



We ♥ どうとく Vol.14

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

筑波大附属小
加藤宣行先生
に学ぶ！

今回のテーマ

考え、議論したくなる学級づくり part 2

いい先生を演じない

子どもが成長する姿は教師にとって何よりうれしいことです。だからこそ、目に見える成長を短い期間で求め、教師が手取り足取り教えてその通りにやらせて、その姿を見て、「子どもは成長した」と思うことがあります。それも1つの成長の形ですし、自信や達成感をもたせる手段です。ですが、本当の意味で生徒が自分で考え行動していく人間に育っていくためには、教師は「いい先生」を演じているばかりではいけません。子どもはいい先生だけを求めています。場面ごとに子どもたちと泥臭く一緒に考えていくことを何度もやり続けなければなりません。わからないことは「分からない」と言える、間違ったときは「ごめん、間違えた」と言える、そして子どもを一人の人間として捉え、子どもに対峙できる教師を目指すべきです。理屈や力づくで押さえつけるのではなく、この先生の言うことなら聞きたい、いっしょに考えたい、成長を見てもらいたい、と思わせることが大事なのではないでしょうか。学級担任として、まずこの基本スタンスをもつことが、「考え、議論したくなる学級づくり」のスタートなのかもしれませんね。

We ♥ どうとく Vol.15

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

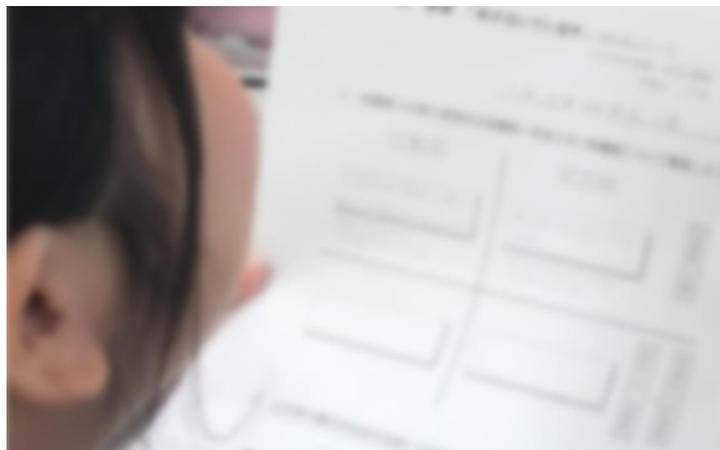
3名の先生方、
ありがとうございました！

一人一授業に学ぶ

板橋先生

灰野先生

金成先生



板橋先生 C-12 社会参画、公共の精神

ある図書館では、本が傷つけられたり、なくなったりすることが多発。被害を防ぐために制約だらけになった図書館と、制約のない図書館の長短所を、マトリクス上で整理しました。制約のあるなしに関わらず残る短所を解決する上で、物的な対策より、一人一人の意識が大切であるということに気付くことができました。マトリクスを手段として授業のねらいに迫る。ぜひ皆さんも挑戦してみてください。

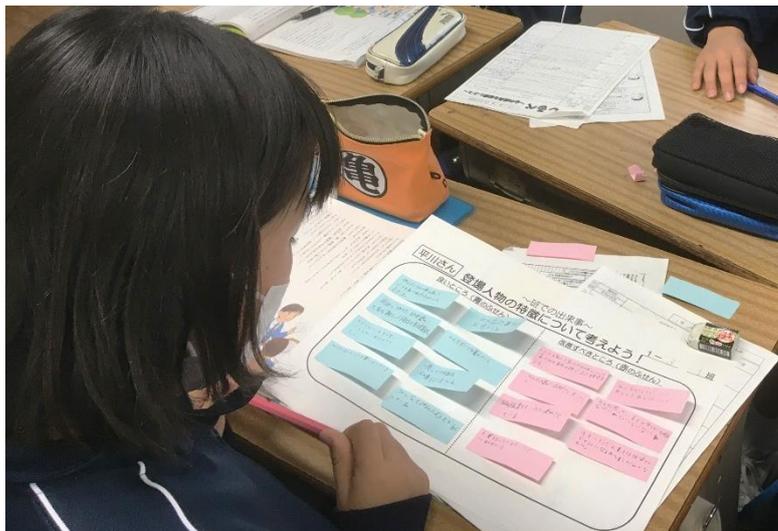
灰野先生 C-14 家族愛、家庭生活の充実

「母は押入れ」を資料に、家族の想いを考える授業でした。資料をもとに、主人公の母の想いについて考え、班から全体へと交流を広げ、それぞれが考えを深めることができました。家族愛を扱うに際して、灰野先生は事前に授業学級の家庭環境を確認し、母親のいない生徒がいないことを把握されていました。このような実態把握は、特に家族を扱った授業では必要になりますね。



金成先生 C-15 よりよい学校生活、集団生活の充実

学級内で男女生徒5名が登場し、考えの違いから衝突する「友達とともに」という資料を使い、よりよい人間関係を作る上で大切なことを考えました。5人も登場人物がいる中で、金成先生は学級を5班に分け、それぞれの班に登場人物を1人ずつ割り当て、2色のふせんを使いそれぞれの人物の良かった点、改善すべき点を考えました。その後全体で交流し、ねらいに迫りました。工夫をこらした授業になりました。



We ♥ どうとく Vol.16

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

3名の先生方、
ありがとうございました！
いました！

一人一授業に学ぶ

今井先生

久保田先生

藤井先生

今井先生 D-19 生命の尊さ

「いのちって何だろう」を資料に、命について考えました。命について考える手立てとして、今井先生はご自身の体験談を淡々と語られました。にぎやかなクラスも静まりかえり、じっくり耳を傾けていました。教師は生きる教材。ご自身が体験されたことほど、強い想いで生徒の心に残るものはありません。「この想いをこどもに語りたいたんだ」こそ、最大の手立ての1つであることに気付かせていただきました。

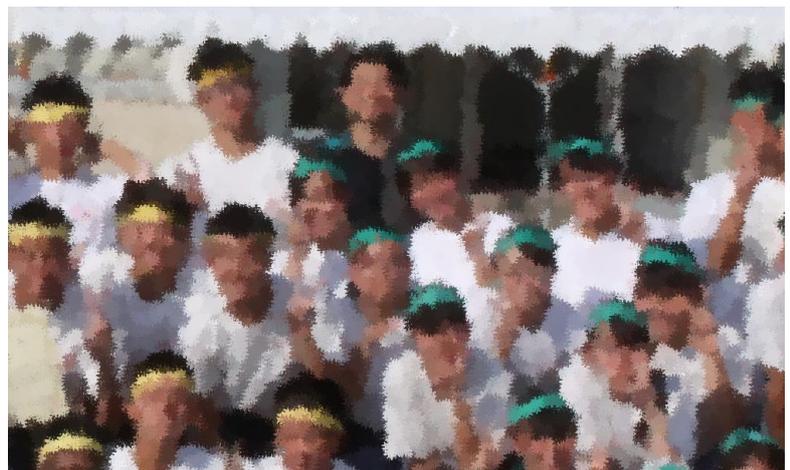


久保田先生 C-12 社会参画、公共の精神

2020 東京オリパラ招致で有名になった佐藤真海さんの半生を題材に、社会に参画していく心情を深めました。生徒は佐藤さんの動画を、彼女の心の変容に合わせて4つに分けて視聴しました。そして動画の場面が変わるごとに、どんなことを感じたかをペアを変えながら交流しました。生徒は、ペアを変えることで様々な考え方に触れ、自身の考えを深めていました。また、映像資料は生徒の関心を高め、より意欲的な意見交流へとつながっていました。

藤井先生 C-13 勤労

「好きな仕事か安定かで悩んでいる」を資料に、自身の勤労観や生き方について考えました。主人公は「好きな仕事」と「安定した仕事」どちらを選ぶべきかを考え、それから、それぞれのメリット・デメリットを考え、意見を交流し、自身の職業観や生き方への考えを深めました。終盤で「保護者はどんな思いで働いているか」を問い、最も身近な勤労者の思いを考えさせ、より多面的・多角的かつ、自分により身近な視点で考えを深めることができました。



We ♥ どうとく Vol.17

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

3名の先生方、
ありがとうございました！
いました！

一人一授業に学ぶ

檜垣先生

石井先生

佐々木先生



檜垣先生 C-10 遵法精神、公德心

ルールやきまりが守られ、規律ある安定した社会を実現していく上で、どのような心構えが大切かを考えました。資料の主人公の心情を考えると同時に、「同じような場面に遭遇したらどうする」のように自分との関わりで考えさせる補助発問が設定したり、心理学者の分析について考えさせたりしました。様々な視点から遵法について考えた上で中心発問を投げかけたことで、生徒は考えを深め広げることができました。

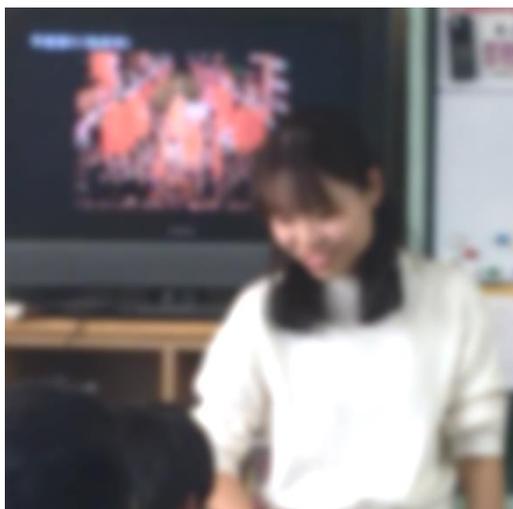
石井先生 C-18 国際理解、国際貢献

外交官杉原千畝氏を題材に、人間愛の精神に基づき、国際的な視野に立って世界平和と人類の発展に寄与しようとする心情を育てました。自分が杉原氏の立場ならどうするかを考え、班で交流しました。その後、中心発問「杉原さんが幾日も悩んだことはどのようなこと？」を問うことで、自分たちの判断基準と、杉原氏の判断基準の差を感じ、国際的な視野に立つこととはどのようなことか、考えを広げることができました。



佐々木先生 C-16 郷土の伝統と文化の尊重

故郷の祭りで、観光客に名所や名産を伝えるという経験をした中学生が、その経験からより故郷について知りたいと考えるようになっていく様子を綴った資料をもとに、中心発問「ふるさとのためにできることは何か」を考えさせました。資料内の中学生が、故郷の魅力を伝えることができた場面の良さ・課題をそれぞれ考えさせた上で、中心発問に迫ったことで、郷土を理解することの良さや実際に行動に移す難しさを自分との関わりで考えることができました。



We ♥ どうとく Vol.18

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

筑波大附属小
加藤宣行先生
に学ぶ！

今回のテーマ

考え、議論したくなる学級づくり part 3

生徒の発言をちゃんと聴く

「最後のおくり物」という教材では、自分のことを二の次にして若者に親切にするおじいさんの姿が感動的に描かれています。子どもたちは「親切を飛び越えて、とても優しい人」などと言っている中、1人の男子が「おじいさんは偽善者かもしれない」と言い出しました。ドキッとしました。

予想しない意見や、流れをひっくり返すような意見が出たとき、先生ならどうされますか？私はこの男子の発言に内心驚いたものの、「どうして偽善者なの？」と問い返しました。すると男子は「だって、このおじいさんがしたことで、若者は自分ががんばらなくてもなんとかなると勘違いして、甘える心が生まれてしまったかもしれない。」と答えました。「偽善者」の使い方は間違っていました。おじいさんの優しさを認めた上で、本当にそれが相手のためなのか、という疑問を提示してくれたのです。これこそ、多面的・多角的な視点での話し合いなのではないでしょうか。もし、男子の発言に対し否定する、そこまでいかなくても、表情や態度で「なんてこと言うんだ」が伝わっていたら、議論の広がりにはつながらなかったですね。

授業にはねらいがあって当然です。しかし、教師の思いが強すぎたり、子どもの発言を聴く姿勢がなかったりすると、無意識に子どもの発言を「選別」するようになってしまいます。考えられる子どもを育てたければ、教師が考えること、議論することを楽しむことが大切です。

We ♥ どうとく Vol.19

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

道徳科における評価の 基礎基本を再確認

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)【概要】

(平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

＜道徳科における評価の在り方＞

【道徳科における評価の基本的な考え方】

- 児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側からみれば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料。
- 道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、
 - ・ 数値による評価ではなく、記述式とすること、
 - ・ 個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること、
 - ・ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価(※)として行うこと、
 - ・ 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること、
 - ・ 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ることが求められる。

※個人内評価・・・児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価

【道徳科の評価の方向性】

- 指導要録においては当面、一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、
 - ・ 他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**
(自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場면을多面的・多角的に考えようとしている等)
 - ・ 多面的・多角的な思考の中で、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**
(読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等)
- **といった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する**、といった改善を図ることが妥当。
- 評価に当たっては、**児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり**、1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、**年間35時間の授業という長い期間で見取ったりする**などの工夫が必要。
- 道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは**基本的な性格が異なる**ものであることから、**調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要**。

＜発達障害等のある児童生徒への必要な配慮＞

- 児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮が必要。

We ♥ どうとく Vol.20

～生徒も教師も道徳の時間が楽しみ！～

今回のテーマ

道徳アンケート（生徒）結果報告

臨時休校直前の忙しい中、道徳アンケートの実施にご協力いただきありがとうございました。結果のご報告をさせていただきます。以下の質問に「はい」と答えた生徒が全校生徒のうち何%いるかを示した数字を、3年間の推移とともに載せさせていただきます。

問い	29年度12月	30年度12月	令和元年度2月
Q1.道徳の授業は好きですか？	82.5	82.9	83.6
Q2.道徳の授業でためになったことはありますか？	61.5	73.6	79.4
Q3.友達の見解を聞いて、なるほどと思ったことはありますか？	95.0	73.6	71.4
Q4.道徳の授業で勉強したことについて、家族と話したことはありますか？	11.5	22.5	18.4

各学年の結果もごさいますので、関心のある方は道徳教育推進教師までお問い合わせください。

道徳の授業に改善に向けた先生方のご尽力が、このようなすばらしい結果につながりました。Q1は3年間連続UP（実は「いいえ」と答えた生徒の理由も素敵なものが多数！）。Q2も同様3年連続UP。いじめ防止や学校行事などとの関連付け、別業を意識しながら取り組んだ成果です。Q3は、29年度は「考え議論する道徳」に向け抜本的に授業改善をした年なので、ポイントが高いたいで、それ以降も7割超をキープできていることは、先生方が授業の中で生徒同士の交流の場を設けていただいている成果です。Q4については、中学生の発達段階、家庭環境等、授業だけでどうこうなるものではありませんが、家庭との連携は今後の課題の1つですね。

とにもかくにも、先生方がご自身の道徳の授業に向けたこれまでの実践に自信をもっていたくには十分な結果です。この1年間、邑楽中で道徳の授業改善に取り組んだことを誇りに、来年度もそれぞれの場所で、こどもたちの道徳性を養うために力を発揮していきましょう。数字はあくまでも参考程度に、授業中の生徒の顔が変わる、心が動く姿をこれからも求め続けていく邑楽中教員チームであり続けたいですね。先生方のこれまでの実践、大変ありがとうございました！